

リーディングスキルからの授業改善

リーディングスキルの視点を意識した授業改善

- (1) 6分野7項目の視点を意識した授業研究を行う。
- (2) 基本は「係り受け解析」と「照応解決」
- (3) 授業のねらいに応じて「同義文判定」「推論」「イメージ同定」「具体例同定」

授業改善のポイント

- (1) 教師がリーディングスキルの視点で教科書（文章）を読む
 - 一文が長く、文の構造を捉えにくい文章は明らかになっているか。
 - 教科書本文とどの図やグラフ等が対応しているか明らかになっているか。
 - 子どもたちが教科書の文章を音読する際に、つまりく語句はないかを確認しているか。
 - 省略されている主語や目的語は明らかになっているか。
- (2) 子どもが教科書をフル活用する。
 - 授業では教科書を使用しているか。
 - 「どこで」効果的に使わせるのか。
 - 子どもたちは教科書を活用しているか。
- (3) 教師と子どもで学習課題の確認をする。
 - 授業のねらいが子どもに伝わっているか。
 - ・ 何を学ぶのか
 - ・ どうやって学ぶのか
 - ・ 何ができるようになるのか
- (4) ノートに残す板書を構築する
 - 後で子どもがノートを見返したときに、意味が通じるか。(主語・述語・指示語)
 - 教科書の定義文は、教科書の通り板書しているか。
- (5) 教師の意図が伝わる表現をする。
 - 一意に決まらない表現は避けているか。
 NG例：「しっかり」「ちゃんと」「きちんと」「工夫して」 ※ 学習課題に使わない
- (6) 意図的にアウトプットの機会をつくる
 - 教師が意図的な問い返しをしているか。
 - ・ 理由を説明させる。
 - ・ 根拠を探させる。
 - ・ 本当にそう言えるのか、妥当性を判断させる。
 - 教科書の文章を図表等に表現させているか。
- (7) 具体例生成や同義文生成の活動を取り入れる。
 - 同義で言い換えた表現や具体例は何かを明らかにしているか。
 - 定義を基に具体例を考える「具体例生成」をさせたか。
 - 同義となるように言い換える「同義文生成」をさせたか。
- (8) 文の読み方を明示的に指導する。
 - 教科書を正しく読むための方略を明確化し、子どもたちに伝えているか。
 - その方略がなぜよいのか、子どもたちに伝えているか。
 - 方略を使うための意図的な練習の機会を設定しているか。
 - 課題解決の過程についてフィードバックしているか。
 【例】・線を引く ・丸で囲む ・図で表す ・矢印をひく ・題名に着目する

授業改善のために

- (1) 先生がリーディングスキルの視点で教科書（指導書ではない）を読んでいるか。
- (2) 生徒にリーディングスキルの内容と必要性を理解させ、意識をもたせ、適切に評価することで、リーディングスキルがより身につくようになる。
- (3) 板書視写 速く書ける⇔意味がわかる
- (4) 文章を書く場合も、話す場合も、意味として「一意」になっているかを考える。
- (5) 文章を書く場合も、話す場合も、文章として成り立っているか推敲する。
- (6) 話し方を鍛える
 - ① 質問に対して最初に答えの結論を言う。
 - ② 主語を必ず入れる。
 - ③ 結論の理由を言う。
 - ④ 結論を別の言い回しで再提示する。
- (7) 中学校は全教科でリーディングスキルを意識することができる。リーディングスキルの視点で教科の枠を超えて話し合うことができる。